

AD ALTIORA SEMPER

神戸市外国語大学学術情報センターだより 第29号 Nov 2008

CONTENTS:

- ♪ 巻頭エッセイ - 中沢葉子先生
- ♪ 視聴覚ライブラリー映像資料紹介③
- ♪ 学生エッセイ - ビバ・図書館!
- ♪ 資料展示「外国語で読む源氏物語～本学専攻語より～」
- ♪ ミニ展示「司書のおすすめD (Display)」について
- ♪ 情報の探し方ガイド「Infosheet」の発行について
- ♪ オンラインコーパスの導入について
- ♪ 市民利用制度(2007年12月～)の経過報告
- ♪ 閲覧室の増築工事(進捗報告)
- ♪ 応用視聴覚教室のリニューアル
- ♪ 長期貸出(冬期休暇)
- ♪ 年末年始の開館時間と休館日
- ♪ 図書館日誌(活動記録)
- ♪ 編集後記

♪ 巻頭エッセイ - 中沢葉子先生

ケンブリッジ滞在記

わたしは2007年4月から2008年3月末まで在外研究の機会を与えられ、イギリス、ケンブリッジ大学のカレッジの一つ、クレア・ホールにて研究を行いました。

ケンブリッジを選んだのは、町がコンパクトにまとまっており、徒歩での生活が可能であったからです。大学以外にこれといった産業のない田舎町ですが、大学で研究生生活を送る上では必要なオフィス、図書館、セミナーなどが行われる施設、住居などが徒歩圏あるいは自転車で移動可能な範囲にそろっていました。これは、朝夕の子どもたちの学校への送迎という制約がある身には大きな魅力でした。

ケンブリッジ、オックスフォードはともに一つの

総合文化コース准教授 中沢 葉子

大学に日本でも一般的な学部や研究所と、カレッジという二つのシステムが併存しています。大学は通常学部や研究所から構成されており、学部単位の研究、教育活動はここでおこなわれ、学生も教員の多くも特定の学部にも所属しています。同時に学生や教員はカレッジにも所属しているのです。カレッジは、基本的に教員および学生が共同生活をする場であって、さまざまな学部の学生や、教員がカレッジ内の寮に暮らしています。わたしは、ケンブリッジ大学歴史学部の客員研究員と、クレア・ホールの客員フェロウという、二つの立場を持つことになりました。どちらか一方だけに所属を持つ教員がいたり、ケンブリッジにありながら、ケン

ブリッジ大学とは公式の関係をもたないカレッジもあるなど、この仕組みはなかなか複雑です。また、カレッジは、生活の場であると同時に教育、研究機能も持っていますから、セミナーなどは、学部ではなく、主催する教員が所属するカレッジで開催されることがよくあります。

このカレッジですが、重要なのは、教育・研究設備ではなく、実はダイニング、つまり食堂でした。これは、単にそこに集う人たちの胃袋を満たすというだけでなく、知的な欲求をも満たすうえで何より重要な施設といえるでしょう。各カレッジは必ずダイニングを備えており、所属する学生や教員は昼食や夕食をそこでとり、カレッジ内に住むことで、文字通り寝食をともにしながら研究生活を送ることになります。

カレッジの構成員は、会費のような所属費用を毎月一定額おさめることになっているのですが、そこには月 20 食分のカレッジでの食事代が含まれていますから、カレッジに所属する以上は、多彩な分野の研究者や学生と食事をしながら交流することがある意味義務でもあるわけです。わたし自身、食事の後もラウンジでコーヒーや紅茶をすすりながら話しているうちに議論が白熱してしまい(といっても、必ずしも研究の話ばかりとは限りませんが)、小学校の迎えに遅れそうになってあわてることもしばしばでした。研究上のはなしはともかく、分野をこえた研究者仲間によく話題になったのは、近年の大学をめぐる状況の厳しさで、これは世界共通の現象のようです。とにかく、どこの国のどの大学も財政難にあえいでおり、予算獲得のためにも眼に見える研究成果を、できるだけわかりやすく発信することが求められているのは同じでした。未知なるものへの自由な挑戦と、現実のニーズにどのように折り合いをつけるのか、

両者が実は相反するものではないことを、どのように世間に納得してもらおうのか、すぐには役に立ちそうもない基礎科学や文系の研究を生業とする仲間は一様に頭を抱えていました。

大学の状況が厳しいことはさておき、昨年一年間のイギリスは、今思えばバブル時代の最末期でした。前回私がイギリスに暮らした 1990 年代はじめは、日本がバブル最末期、一方のイギリスは経済が疲弊しきって沈滞した空気が支配していたものです。ところが、今回はイギリス社会全体がなんとなく浮足立ったような空気に包まれていました。中世の街並みが残るケンブリッジでさえ郊外に一步出れば新しい建物がどんどん建てられ、街並みも雰囲気も刻々変化するのを目にして、変わらない国といわれているイギリスでさえ、一定の時間が経過すれば、大きく変わることを実感した一年でした。日本では 20 年近く、(大学の学費をのぞいて)物価が高騰するという経験をしなかったわたしには、この間の異様な物価上昇やポンド高が何によるものなのか、そのベースとなるはずの経済の実態が全くつかめず、さしたる産業もないように見えるのに前回街にあふれていた失業者が見当たらないこともあわせて、いくら考えても答えらしきものが見つからず、今でも釈然としないままです。

イギリスのバブルは、昨年すでに金融機関が破綻したころには、早晩はじける兆しがみえていたものの、社会全体的の妙な高揚感には私が帰る 4 月初めまであまり変わることはありませんでした。今年 9 月以来の世界的な金融危機の影響がアメリカと並んでイギリスも深刻な影響を受けていると思いますが、11 月初め、短い滞在の折りに街の空気がどのように変化しているのか、確かめてみたいとおもっています。

♪ 視聴覚ライブラリー映像資料紹介 ③

共同研究棟2階の視聴覚ライブラリーでは、数多くの映像・音声資料を所蔵しています。

視聴覚ライブラリーをよく利用される在学生の方に、数多くの映画の中から、外大生の皆さんにおすすめの映画をご紹介します。

今回は第3弾です。第1弾の「英米・ロシア篇」は前々号の27号(2007年11月発行)のp5-6に、第2弾の「中国・イスパニア篇」は前号の28号(2008年6月発行)のp3-4に、それぞれ掲載されています。(図書館より)

大学院 修士課程1回(イスパニア)

『街のあかり』／『過去のない男』

記号のようなシーンの連続から生み出されるドラマチックで斬新なストーリー。そして決してこちらを飽きさせない無口な登場人物たち。そんなあまりにも寡黙すぎる世界に衝撃を受けるかもしれない。

敗者を描かせればとにかくピカイチのアキ・カウリスマキ。その最新作『街のあかり』(2006)はチャップリンの『街の灯』(1931)へのオマージュだと言われる。ところどころにチャップリンの『街の灯』からの要素が散りばめられ、そこにさらに無機質なユーモアと現代風のシニカルさを足したすばらしい作品だ。何をしてもしも裏目に出てしまう主人公コイスティネンほど、こんなにも不器用で、情けなくて、なのにこんなにもまっすぐで、ロマンチックな男って他にいるだろうか？

—「自分の映画はぜんぶ同じクソみたいなものだけど、悪くはない」— こう語るフィンランドの異端児アキ・カウリス

マキが、カンヌ映画祭でグランプリを受賞し、その名を挙げるきっかけとなった映画が『過去のない男』(2002)である。冴えない中年男を主人公に、社会の光と影を描き出す。いや、むしろ光を描き出す。これは傑作である。

人は絶望の淵に立たされたときどうするのか？最悪に不幸な人々の日々をぜひ観ていただきたい。

『アンダーグラウンド』

エミール・クストリツァは、ユーゴスラヴィアの首都サラエヴォ出身の映画監督である。ご存知のとおり、ユーゴスラヴィアという国はもうない。90年代の紛争で祖国が分裂していく中、国民を騙し、利用し続ける戦争という現実と、それでも力強く陽気に生きる人々を描こうと作られたのが、『アンダーグラウンド』(1995)である。

激しいリズムに乗ってテンポよく駆けていく物語は、強烈で、壮大で、とんでもなく楽しくて、耐え難いくらいに哀しい。

世界三大映画祭すべてで監督賞に輝いた天才エミール・クストリツァに、喜怒哀楽を思うがままに操られる、鳥肌が立つくらい完璧な3時間だ。

上記で紹介された作品はすべて共同研究棟2階の視聴覚ライブラリーで視聴することができます。各作品の請求番号と媒体の種類等は以下のとおりです。

街のあかり	(字幕)	VFiMo3	DVD	75分
過去のない男	(字幕)	VFiMo2	DVD	97分
アンダーグラウンド	(字幕)	VScMo5	VHS	171分

視聴するには、受付カウンターで申込用紙「視聴覚資料利用申請書」に必要事項(タイトル・請求記号・媒体の種類等)をご記入の上、学生証とあわせて提出してください。

ライブラリーの開室時間は、授業期間中は平日 9:30~21:00、休暇期間中は平日 9:30~16:30 です。なお、開室時間は変更される場合があります。開室カレンダーは視聴覚ライブラリーのウェブサイト*で確認することができます。

*視聴覚ライブラリーウェブサイト

<http://www.kobe-cufs.ac.jp/library/ja/AV/index.htm>



ビバ・外大図書館！

大学院 博士課程

みなさんは、神戸市外大の図書館（以下、外大図書館）をどれくらい利用していますか。他の図書館と比べてみたことはありますか。

過日、ある国の首都にある、ごく小規模の国立研究所を訪れる機会があり、そこには図書室と呼ばれる小さな書庫がありました。なんのことはない、小学校の教室くらいの部屋に、所狭しとスチール棚が並んでおり、古ぼけた本や雑誌が項目別に詰め込んであるだけです。新しく蔵書が増える予定なんてほとんどありません。でも、そこで研究活動をしている人たちにとってはそれがもっとも身近にある図書館であり、新しい本や雑誌が必要になれば、自分でどこか他の場所へアクセスして手に入れるしかないのです。外国での研修から帰ってきたある研究員は、何が一番よかったかと訊かれ、迷わず「図書館！」と応えていました。それだけその人にとって、充実した図書館が手の届くところにあるというのは、何物にも代えがたい憧れなのです。

外大図書館は、大学自体の規模から鑑みて、あまり品揃えやサービスがよくないのではないかとされているかもしれませんが、そうは思いません。少なくとも言語や外国語学に関する専門書は、他

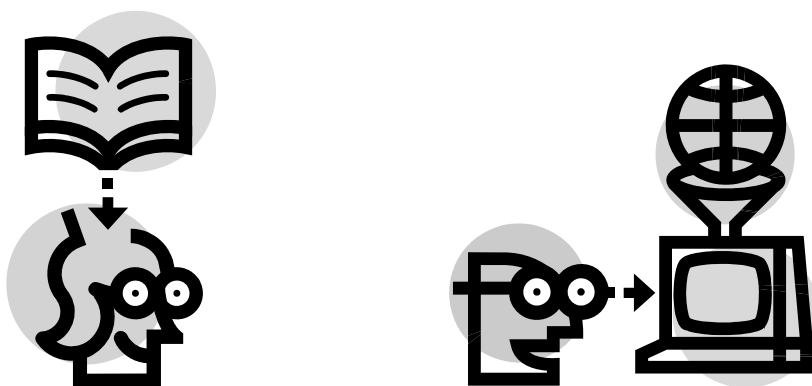
の大学図書館などと比べてもかなり豊富だと思えますし、さらにそれ以外の読み物なども決して少なくないように見受けられます。司書の人たちは、学生から希望があれば積極的に買い入れる努力をしてくれますし、事実、外大図書館には日々たくさんの資料が入荷されています。あれだけ毎日増える本や雑誌をどこへどうやって収納しているのか、どれだけ整理しても増築しても追いつかないのではないかと、不思議で仕方ないくらいです。雑誌もさまざまな分野のものが揃っていますし、注文すれば周辺の図書館の本まで外大図書館で借りられます。あまり勉強や読書のときのお行儀がよろしくない私は、外大図書館の狭い公共閲覧スペースでは居心地が悪いので、基本的に資料を借り出して別の落ち着いた場所で読みますが、借りている冊数は平均して限度数の8割ほどになると思います。面白そうだと思ったものを順番に借りていると、いつの間にか両手がいっぱいになってしまうのです。

普段、自分の専門に関係のあるものや、自分の関心の向くものにしか触れてきませんでしたが、先日、外大図書館の仕事を体験する機会を得て、図書館の中の今まで足を踏み入れなかった場所まで目に

することができました。そして、うちの図書館ではこんなものを手にとれるのか、こんな資料に触れられるのかと、感激したのです。学科が設けられていない諸外国語に関する資料はもちろん、経済や数学など他の学問分野やコンピューターに関する書籍、雑誌、各種新書やデータブック、さらには料理本や小説など（日本のとある大学図書館には、大学の学科に関する専門書以外の本がほとんど置かれていないそうです）、どれも好奇心を掻き立てるものばかりです。そして電子化された資料もコンピューターで閲覧することができ、膨大な資料から情報を検索す

ることもできます。正直なところ、入学当初のオリエンテーションでまじめに説明を聞いていなかった私は、図書館の機能を半分も把握していなかったことを、今更ながら後悔しています。

図書館の利用は、学生である限り無料です（学生でなくとも、卒業生や神戸市民なら利用できるようですが）。身近にある英知の城を、タダで利用しないテはありませんよ！



♪ 資料展示「外国語で読む源氏物語
～本学専攻語より～」について

2008年は紫式部日記で源氏物語について記述されてから千年に当たります。今年には全国各地で関連イベントが開催され、外国語に翻訳された源氏物語も展示されました。

当館でも各専攻語に翻訳された『源氏物語』を所蔵しています。ロビーにて展示していますので、ご興味をお持ちの方は、どうぞご覧ください。

<概要>

期間：2008年10月1日(水)
～2009年3月24日(火)

テーマ：外国語で読む源氏物語
～本学専攻語より～

展示資料：

[英語]

- ①The tale of Genji / Murasaki Shikibu ; translated by Arthur Waley
- ②The tale of Genji / Murasaki Shikibu ; translated with an introduction by Edward Seidensticker
- ③The tale of Genji / Murasaki Shikibu ; translated by Royall Tyler

[ロシア語]

- ④Повесть о Гэндзи : Гэндзи-моногатари / Мураками Сикибу ; перевод с японского Т.Соколовой-Делюсиной

[中国語]

- ⑤源氏物語 / 紫式部著 ; 豊子愷訳

[スペイン語]

- ⑥Genji Monogatari (Romance de Genji) / Murasaki Shikibu ; traducción Fernando Guirrez
- ⑦La novela de Genji / Murasaki Shikibu ; versión, comentarios y notas Xavier Roca-Ferrer

- ⑧La historia de Genji / Murasaki Shikibu ; edición Royall Tyler, traducción Jordi Fíbla

♪ ミニ展示

「司書のおすすめD (Display)」について

閲覧室内カウンター前のスペースでミニ展示「司書のおすすめD (Display)」を始めました。

当館司書がテーマを決めて、授業期間中の2ヶ月ごとにおすすめの資料を展示します。今年度は専攻語のロシア語・中国語・スペイン語の図書を中心に展示します。

通常は書庫に入っている外国語資料を気軽に手に取れるチャンスです。展示図書は借りられます。この機会にどうぞご利用ください。なお、ウェブ版「司書のおすすめ」とは異なる資料を展示しています。

[2008年度後期第1回]

期間：2008年10月1日(水)
～11月28日(金)

テーマ：

[ロシア語] ソルジェニーツィン哀悼

[中国語] 中国、5つの「四大」小説
《四大奇書》と《四大名著》

[スペイン語] スペイン語で読む日本文学

[2008年度後期第2回]

期間：2008年12月1日(月)
～2009年1月30日(金)

テーマ：

[ロシア語] ロシア語で読む日本文学

[中国語] 新語・標語で見る現代中国

[スペイン語] スペイン語で書く！

♪ 情報の探し方ガイド
「Infosheet」の発行について

情報の探し方ガイド「Infosheet」シリーズの発行を開始しました。

「Infosheet」は、図書館で特定のテーマの資料や情報を探すときに役立つシートです。A4のシート両面に、あるテーマに関する資料が本棚のどこにあるか、また、蔵書検索のときにはどんなキーワードを入れればいいのかを紹介しています。

今後は各学科に関連したテーマを充実させていく予定です。「Infosheet」は図書館内で入手できるほか、学術情報センターウェブサイトからもダウンロードできます。どうぞご利用ください。

[Infosheet タイトル]

- ・大学生活のヒント(大学での学び方や論文の書き方に関する図書を探す方法)
- ・図書館で集める！就職活動に役立つ情報(図書館で読めるビジネス誌・専門紙などを紹介)
- ・スペインについて調べる 図書編(スペインに関する日本語の図書の探し方)

Infosheet は以下のページから入手できます。

<http://www.kobe-cufs.ac.jp/library/ja/infosheet/infosheet.html>

♪ オンラインコーパスの導入について

2008年10月より、下記の2種類のオンラインコーパス(小学館コーパスネットワーク提供)が使えるようになりました。

- ・ BNC Online
BNC=The British National Corpus をオンラインで利用できます。1億語を収録した世界最大のイギリス英語コーパスです。
- ・ WordbanksOnline
HarperCollins 社が構築している大規模コーパス Bank of English (BOE)

のうち5,600万語を検索できます。収録テキストは英・米・豪英語を含みます。

閲覧室内複写室前のデータベース専用パソコンで利用できます。使い方はパソコン備え付けのマニュアルをご覧ください。

♪ 市民利用制度(2007年12月～)の経過報告

昨年2007年の12月からスタートした市民利用制度の、今年2008年10月末までの経過報告です。

[市民利用制度の利用状況]

(9ヶ月間:2007年12月～2008年10月)

※2008年2～3月は空調工事のため、閉館していました。(参照:本誌前号p7)

新規登録者	97名
延べ来館者	708名
累計貸出冊数	623冊
開館日数(9ヶ月間)	73日

[市民利用制度の概観]

新規登録は、8月(2008年)が21名と最も多く、他の月はコンスタントに10名前後の方が新規登録されています。そのうち西区・垂水区の方が最も多く、それぞれ全体の4割を占めています。

又、事前にHPで制度についてお調べの上で来られる方が多くおられます。

延べ来館者数は、8月と9月(2008年)がそれぞれ212名と155名と最も多くなっています。

その他の月については、最初の2ヶ月は合わせても40名でしたが、4月(2008年)以降は、毎月コンスタントに50～70名の方のご来館がありました。

貸出冊数は、ご来館1回あたり平均1冊弱で、お一人平均の累計貸出冊数は6.4冊です。

♪ 閲覧室の増築工事（進捗報告）

当初の予定通り、来年2009年4月から、閲覧室の増築部分をご利用いただける予定です。

但し、工事に若干の遅れがあるため、後期に入っても騒音を伴う工事が続いているため、図書館ご利用の皆様にご迷惑をお掛けしております。

2009年4月の供用開始に間に合うよう、また大きな音の出る作業を土日に行い極力騒音を抑える等、取り組んでおりますので、申し訳ございませんが、引き続きご協力をよろしくお願い致します。

♪ 応用視聴覚教室のリニューアル

応用視聴覚教室をリニューアルしました。

1. 従来より備えていた同時通訳演習機能の特徴を損なうことなく、マルチメディア機器をアナログからデジタル対応に更新しました。
2. 会議卓の席数を14席から25席に増設しました。
3. 教師卓や演壇のみならず、会議卓からもPCのインターネット接続を可能にしました。
4. 2台のプロジェクターを設置し、将来の遠隔授業も視野に入れた拡張性を持たせています。



♪ 長期貸出(冬期休暇)

下記の通り、冬季休暇の長期貸出を行います。

貸出期間:12月8日(月)～12月26日(金)

所属・学年	貸出冊数	返却期限
1・2年生 科目等履修生 卒業生	7冊	2009年 1月14日 (水)
3・4年生	10冊	
院生 研究生	20冊	

上記の期間中に借りた資料は、来年2009年月14日(水)まで借りておくことができます。

又、1・2年生、科目等履修生、卒業生の方は、貸出冊数の上限が、通常の5冊から7冊になります。

尚、院生・研究生の方は12月17日(水)以降に借りられた場合の返却期限日は、通常通り4週間後となります。

♪ 年末年始の開館時間と休館日

12月16日(水)以降、年末年始の開館時間は次の通りです。

日付	開館時間
12/16(火)	9:00～21:10
12/17(水)	
12/18(木)	17:00～21:10
12/19(金)	9:00～21:20
12/20(土)	10:00～17:00
12/22(月)	9:00～21:10
12/24(水)	
12/25(木)	9:00～21:20
12/26(金)	
2009年 1/5(月)～1/9(金)	9:00～21:30

*日曜・祝日および12月27日(土)～1月4日(日)は、終日休館致します。

2008年

- 6月5-6日 公大協図書館協議会・総会(仙台) 1名派遣
11日 兵庫県大学図書館協議会(本学学内・三木記念会館) 3名出席
16日 JapanKnowledge フレンドシップセミナー2008in 大阪(大阪) 1名派遣
19日 神戸研究学園都市大学交流推進協議会・図書館部会(神戸) 1名派遣
27日 第4回学術情報ソリューションセミナー2008in 大阪(大阪) 1名派遣
28日 情報ネットワーク法学会研究会(龍谷大学深草キャンパス) 1名派遣
30日 学術情報センターだより第28号(=本誌前号)発行
- 7月2日 小学校見学受け入れ
7-31日 前期試験に伴う開館時間の延長(平日9:00-21:30)
9日 高校見学受け入れ
9日 長期貸出の開始(夏期休暇前, 10/3 返却期限)
16-18日 平成20年度情報セキュリティ基礎研修(国立情報学研究所(東京)) 1名派遣
18日 UNITY 研究交流部会(UNITY) 1名派遣
23-25日 平成20年度学術ポータル担当者研修(名古屋大学附属図書館) 1名派遣
- 8月1日 閲覧室の拡張工事開始(翌年2009年3月末に完了予定) ※本号p9を参照ください。
3日 オープンキャンパス「各学科の外国語資料の展示・紹介」
18-25日 蔵書点検(期間中は終日閉館)
22日 平成20年度近畿地区著作権セミナー(京都府総合教育センター) 1名出席
27日 神戸研究学園都市大学交流推進協議会図書館部会・第23回ネットワーク研究会「情報リテラシー教育と外部データベースの活用」(UNITY) 2名派遣
- 9月1日 閲覧室で、ミニ展示「司書のおすすめD(Display)」を開始 ※本号p7を参照ください。
4-5日 公立大学協会図書館協議会・研修会「大学図書館の魅力アップ術
—学生の利用率向上を目指して—」(広島市立大学) 1名派遣
5日 Ex Libris セミナー(大阪) 1名派遣
10-12日 図書館等職員著作権実務講習会(京都大学) 1名派遣
17日 公私立大学図書館コンソーシアム・2008年度版元提案説明会(大阪市立大学) 1名派遣
18-19日 第94回全国図書館大会・兵庫大会(神戸) 1名派遣
24-26日 国立情報学研究所・目録業務システム地域講習会(神戸大学) 1名派遣
- 10月1日 ロビー展示「外国語で読む源氏物語 ～本学専攻語より～」 ※本号p7を参照ください。
(～翌年2009年3月24日)
22-24日 学術情報リテラシー教育担当者研修(大阪大学) 1名派遣
28日 高校見学受け入れ
30-31日 NAIST 電子図書館学講座(奈良先端科学技術大学院大学) 1名派遣
31日 高校見学受け入れ

編集後記

研究者が、研究上のヒントを、学会など公式の場以外の、どちらかといえば非公式な場所での、半ば私的なフリーな会話の中から得ることがあることを、聞いたことがあります。中沢先生のケンブリッジ滞在記からも、大学がそうした環境を、自然な形で整えていることが、うかがえるような気がします。

私たちの大学も、そしてもちろん私たちのセンターもですが、こうした学習、教育、研究のよりよい環境づくりを、施設面だけでなく、その内容を充実させることで実現させていきたいと思っています。

今回ご紹介しているコンテンツで言えば、国際コミュニケーションコースの開設に関連しての応用視聴覚教室の更新や、図書館閲覧室の増築は施設面での、「Infosheet」の発行や「司書のおすすめ Display」は、いわゆるソフト面での取り組みということになるのではないかと思います。

法人化以後の大学は大学間の厳しい競争のなかで、これからも自らの社会的評価を高めるための努力を続けていかななくてはならないと思います。

編集責任者：学術情報センターグループ長
牛原秀治

AD ALTIORA SEMPER No.29 神戸市外国語大学学術情報センターだより

「AD ALTIORA SEMPER」とはラテン語で「常により高きを求めて」という意味です

編集・発行：神戸市外国語大学学術情報センター

〒651-2187 神戸市西区学園東町9丁目1

TEL: 078-794-8151 / FAX: 078-797-2257

E-MAIL: info@lib.kobe-cufs.ac.jp

URL: <http://www.kobe-cufs.ac.jp/library/>

2008年11月28日発行

発行責任者：センター長 益岡隆志